

商品紹介

サーモス 保温弁当箱

THERMOS Hot Lunch Box

1. はじめに

かつて温かい弁当といえば、スープ容器付きの「ランチジャー」が代表例であったが、近年はスープ容器を持たない「保温弁当箱」に年々推移し、年間約120万個市場にまで拡大している。コンパクト化による携帯性の向上に、節約志向の時代の流れにも合致し、各社より様々な商品が発売されている。

2. 概要

当社においても、2003年より保温弁当箱を発売しているが、今回独自のデュアル保温[®]構造を採用した、高い保温性能を保持する保温弁当箱「DBW-250/360」を開発し、2008年より「DBW-360」(図2)を、2009年秋より「DBW-250」(図1)を発売している。



図1 DBW-250外観



図2 DBW-360外観

3. 特長(デュアル保温構造)

ごはん容器は、魔法瓶と同じ真空断熱容器である保温ケースとさらに真空断熱構造にした保温フタを重ね合わせた中に収納され(図3)、従来の発泡スチロール内蔵の断熱フタ構造である同容量帯商品 DBP-360 に比べ、高い保温性能を保持する(図4)。これにより、

スープ容器を持ったランチジャーと同等の保温効力を持続する。

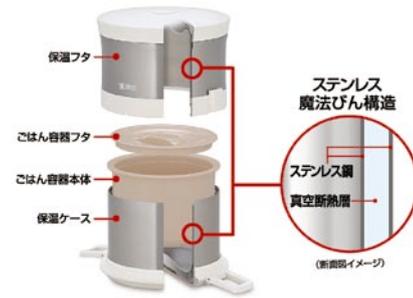


図3 デュアル保温構造

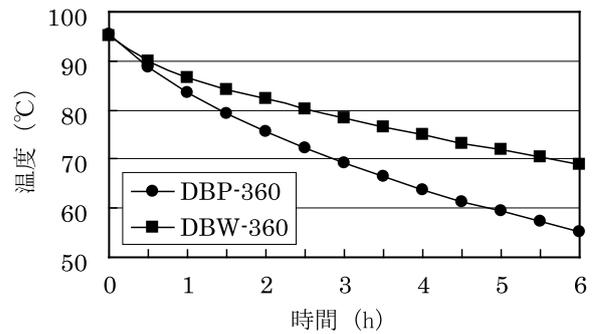


図4 DBP-360/DBW-360 保温性能測定結果
保温性能測定試験：室温 20 ± 2℃において、保温ケースの飯器蓋下の位置まで沸騰水を入れ、湯の温度が95 ± 1.0℃になったとき、飯器蓋と保温フタを閉め、6時間放置し内容湯の温度を測定。

4. 仕様

本商品の仕様を表1に示す。

表1 本商品の仕様

	DBW-250	DBW-360
保温効力(6時間)	57度以上	63度以上
本体重量	0.7kg	0.7kg
幅×奥行×高さ	19.5×11.5×9cm	9.5×11.5×11.5cm
参考上代価格	オープン価格	オープン価格
おかず容器容量	0.19L × 2個	0.23L × 2個
ごはん容器容量	0.25L	0.36L

(サーモス株式会社 開発部 後藤孝志)

問い合わせ先
サーモス株式会社 マーケティング室
Tel. 03-3500-0800